

第2回 第3次さっぽろ都市農業ビジョン策定検討会 委員意見要旨

1. 基本理念・ビジョンの骨子案についての意見

〈基本理念について〉

- ・案1「さっぽろ発「農」ある未来のまちづくり」では、「自分事」ではなく「他人事」のように感じるため、「つなぐ」、「育む」という行動がスローガンに入っていると自分も行動しようとなる。
- ・案1は、「札幌に農業がなければならない」という表現が良い。
- ・その中に、みんなで取組むという意味で「担い手」や「市民」のワードを入れると良い。
- ・「札幌が全国を代表する都市になってほしい」というイメージを込めて「さっぽろ発」は取り入れるべきである。

〈目指す案のイメージについて〉

- ・「農地保全と環境との調和」について、市街化区域の農地も含めて支援していくことが重要だが、有事の際の避難場所や災害対応において農地が果たす重要性を明記すべきである。

2. 担い手・農業経営支援についての意見

〈担い手について〉

- ・多様な担い手の支援は成果が出ているが、農地の保全には繋がっていない事実を皆で認識し、新規参入だけでなく、従来の家族経営も支援・維持することを次期ビジョンに明記すべきである。

〈農業経営支援について〉

- ・現状で農政部としての支援はあるものの、「他の地域と比べると、札幌市は農業に対する支援にもっと力を入れるべき」という意見がある。市内での農業の位置付けを上げるため、次期ビジョンで強く訴えていく必要がある。
- ・農業者への支援について、「国の制度を活用する」だけでなく、札幌市独自の予算を伴う支援を検討すべきである。これによって、「さっぽろ発」という理念を活かすことにつながる。

3. ボランティア・広報活動およびさとらんの活用についての意見

〈ボランティア・広報活動について〉

- ・援農・ボランティアに対して自発的なグループを市がバックアップすることで、市民が農地を守る仕組みを作るべきである。
- ・今年度の広報に係るイベントについて、「JP01 まつり」は道内全域が参加していた一角でパネル展を行っていたが、道庁でのイベントのスタンプラリーと連携していたこともあり、来場者が多かったため、大成功のイベントだったと思う。
- ・普段「農」に縁がない人を呼び込む上で、農業に関係しないイベントを開催することも広報として大切である。
- ・イベントを開催する上で魅力を伝えるには、ただイベントを行うだけでなく、「野菜が好きで熱意のある人」を育成することが重要である。
- ・農作業ボランティアだけでなく、さとらんの案内や花・土壌管理についての観光案内ボランティアなど、多様なボランティア活用も有効である。

〈さとらんの活用について〉

- ・さとらんのイベントに対し、指定管理者に委託している中でも、札幌市がもっと全面的に協力し、力を入れていく必要がある。「これからの札幌の農業の拠点」とするならば、市の意向も反映させるべき。
- ・さとらんどは「遊ぶ場所」のイメージが強く、現状は「食育」の印象が感じられない。新潟の事例のように、天候に左右されず食育できる施設要素を導入すべきである。